

## 教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	道徳
-----	----

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点（ア）基礎・基本の定着</b></p> <p>①巻頭折り込み3ページにわたって、ショートストーリーを用いて学習の流れをわかりやすく示している。</p> <p>②発問の記載箇所（教材文の終わり）発問の数（2） 「考えよう」のコーナーに、マークとともに記載している。</p> <p><b>第2の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫</b></p> <p>①問題解決的な学習ができるよう、2時間扱いの教材を配置し、教材の冒頭にテーマを示している。</p> <p>②「ACTION!」というページで、直前の教材中の一場面をもとに、演技の手順を示して、役割演技を促している。</p> <p><b>第3の観点（ウ）内容の構成・配列・分量</b></p> <p>①各学年とも35教材と付録5教材を設けている。</p> <p>②A 「いじめのない世界へ」を設け、いじめについて気づき考えさせるユニット教材や、付録にも「人権・いじめ」をテーマにした教材を掲載している。</p> <p>B （社会に開かれた教育課程）広島「宮島」の内容を取り上げるなどして、郷土の一員としての自分を考えさせるようにしている。</p> <p>C （小中一貫教育）小学校で学習した教材を再度掲載している。</p> <p><b>第4の観点（エ）内容の表現・表記</b></p> <p>①各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークとともに教材名を示している。また、いじめ問題対応ユニット、生命尊重ユニットを色で囲み、まとまりを示している。</p> <p>②テーマや教材名の下にマークを使い、デジタルコンテンツ、関連して扱える教科があること、心情円を活用できることを示している。</p> <p><b>第5の観点（オ）言語活動の充実</b></p> <p>①教材文の一場面を役割演技することで、学習内容を自分のこととして捉えて考えを深めることができる「ACTION!」を設けている。</p> <p>②巻末に、学期ごとに自分の学びを振り返り、記述するページを設けている。3年生では卒業後の心がけ等を記入するページを設けている。</p>

**第1の観点(ア) 基礎・基本の定着**

- ①見開き2ページに、イラストや吹き出しとともに、授業でどのようにして学んでいくのかを、「問題に気づく」「考え、話し合う」「深める」「つなぐ」の4つで示している。
- ②発問の記載箇所(冒頭の教材名の下) 発問の数(4)  
「学びの道しるべ」のコーナーに、「集団や社会との関わりについて考える教材」を表す青色のマークとともに記載している。

**第2の観点(イ) 主体的に学習に取り組む工夫**

- ①問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりに「学びの道しるべ」のコーナーを設けている。また、教材名の下に、問題意識をもたせるための問いを設けている。
- ②「やってみよう」というページで、日常の体験を想起して話し合うことで、道徳的諸価値の理解を生活の中での行為や習慣に結びつけようとしている。

**第3の観点(ウ) 内容の構成・配列・分量**

- ①各学年とも35教材を設けている。
- ②A 「いじめに立ち向かう」を設け、いじめについて考えるユニット教材やいじめに立ち向かう行動を考えさせるコラムも提示している。  
B (社会に開かれた教育課程) 巻末の補充教材で、「地域の発展」「社会貢献」などについて考える教材を掲載している。  
C (小中一貫教育) 中学校での学習にスムーズに移行できるように、第1学年の1～10までの教材の本文の文字を大きくし、読みやすくしている。

**第4の観点(エ) 内容の表現・表記**

- ①各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークとともに、掲載しているすべての教材名を示している。またいじめや差別のない社会について考えるユニット、生命の尊さについて考えるユニットを色で囲み、まとまりを示している。
- ②目次及び該当教材の左下にマークを使い、「いじめや差別のない社会」「生命の尊さ」について深く考えることができる教材を示している。

**第5の観点(オ) 言語活動の充実**

- ①教材の冒頭に導入の文章を設け、学習テーマを共有することで、対話的な学びを深めていくような工夫がある。
- ②巻末に毎時間の学習を通してためになったこと、心に残ったこと等の感想を記入するページを設けている。

**第1の観点（ア）基礎・基本の定着**

- ①「道徳で何を学ぶの？」では4つの視点ごとに本書で学習する内容等が簡潔にまとめられており、各観点の巻頭で詳しく説明がされている。
- ②発問の記載箇所（教材文の終わり）発問の数（3）  
「集団や社会とのかかわりに関すること」を表す桃色の枠で示した「考えよう」のコーナーのめあての吹き出しの下に、マークとともに記載している。

**第2の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫**

- ①問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりに「てびき」を設けている。「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」の順に問題意識をもたせる問いを示している。
- ②「てびき」の「見方を変えて」の中で、演じるときや、演じる様子を見るときに意識するポイントを示して、役割演技を促している。

**第3の観点（ウ）内容の構成・配列・分量**

- ①各学年とも31教材と複数時間で扱う想定教材の付録4教材を設けている。
- ②A 「いじめを許さない心について考える」ユニットを設け、学年の前半に配置し、教材と「深めタイム」で構成している。  
B （社会に開かれた教育課程）「つなげよう」で日常生活の関連や他教科との関連を示し、さらに深く考えたり、自分の生活につなげられるようにしている。  
C 郷土の伝統文化を受け継いでいく意味について考えさせるようにしている。  
D （小中一貫教育）第1学年では、授業開きの教材の後の第2教材に、小学校の学校生活との違いを考えられる教材を掲載している。全学年の補充教材に小学校での道徳での定番教材を掲載し、小学校の道徳の学びと連携し、深い学びにつながるようにしている。

**第4の観点（エ）内容の表現・表記**

- ①各学年の目次では、すべての教材名をシーズンごとのまとまりで色分けし、「学びのテーマ」に応じて複数のユニットとして示している。
- ②「深めタイム」のマークを設けている。

**第5の観点（オ）言語活動の充実**

- ①年間に3か所、複数時間で取り組む教材「深めタイム」が設けられ、話し合いを促す発問を示している。
- ②巻末にシーズンごとに学びを振り返り、書き留めるページを設けている。

日 文	<p><b>第1の観点（ア）基礎・基本の定着</b></p> <p>①見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間に学ぶ内容項目をイラストとともに示すなどして、学習の見通しを持たせている。</p> <p>②発問の記載箇所（教材文の終わり）発問の数（4） 「考えてみよう」のコーナーに、マークとともに記載している。</p> <p><b>第2の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫</b></p> <p>①教材の後に「学習の進め方」のページを設け、何について議論するのか、どのようなステップで議論を進めるのかを端的に示している。</p> <p>②教材の後に「学習の進め方」のページを設け、どんな体験を通して何について考えるのかを分かりやすく示している。</p> <p><b>第3の観点（ウ）内容の構成・配列・分量</b></p> <p>①各学年とも35教材を設けるとともに、別冊「道徳ノート」を設けている。</p> <p>②A 扉ページ『いじめ』と向き合う』を設定し、いじめを直接的・間接的に扱った教材とコラムをユニット化し、年間で複数配置している。</p> <p>B（社会に開かれた教育課程）地域の歴史から、未来につなげていくために郷土との向き合い方を考えさせるようにしている。</p> <p><b>第4の観点（エ）内容の表現・表記</b></p> <p>①各学年の目次には、『いじめ』と向き合う』『よりよい社会と私たち』のユニットを色で囲み、テーマを教材名の下に示している。</p> <p>②目次及び教材名の右横、別冊「道徳ノート」の教材名の右横にマークを使い、「問題解決的な学習」や「体験的な学習」を扱う教材を示している。</p> <p><b>第5の観点（オ）言語活動の充実</b></p> <p>①教材の終わりに「学習の進め方」のページの「学習を深めるヒント」などで効果的な議論の方法を示している。</p> <p>②別冊「道徳ノート」に、授業で学んだことなどについて振り返る欄を設けている。</p>
-----	--

**第1の観点（ア）基礎・基本の定着**

- ①見開き2ページに、イラストや吹き出しを使い、考えを深めるためのステップを示している。
- ②発問の記載箇所（教材文の終わり）発問の数（2）  
「主として集団や社会とのかかわりに関すること」を表す青色の枠の中の「考えよう」のコーナーに、マークとともに記載している。

**第2の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫**

- ①問題解決的な学びができるよう、教材文の終わりに「深めよう」のページを設けている。
- ②教材の後に、「深めよう」のページを設け、役割演技など体験的な学習を促している。

**第3の観点（ウ）内容の構成・配列・分量**

- ①各学年とも35教材を設けている。
- ②A いじめ防止につながる教材とともに、いじめ防止につながる特設ページ「クローズアップ」を設けている。  
B（社会に開かれた教育課程）被災地復興に向き合うことから、郷土のためにできることを考えさせるようにしている。  
C（小中一貫教育）生徒の発達的特質を考慮して、学年が上がるごとに系統性をもって学習がつながっていくようにしている。

**第4の観点（エ）内容の表現・表記**

- ①ユニットにテーマ毎に色で囲み、マークで示している。
- ②目次及び該当教材のページにマークを使い、情報モラルを扱う教材や命について様々な観点から考える教材を示している。

**第5の観点（オ）言語活動の充実**

- ①教材の終わりの「深めよう」のページに、「話し合おう」を設定し、教材における話し合いを促す発問を示している。
- ②巻末に未来の自分に手紙を書くページを設けている。

<p>廣あかつき</p>	<p><b>第1の観点（ア）基礎・基本の定着</b></p> <p>①巻頭「自分を見つめよう」では道徳科の授業の受け方や学習の深め方等について5つの視点で示している。</p> <p>②発問の記載箇所（教材文の終わり）発問の数（4）  「主として集団や社会とのかかわりに関すること」を表す青色の枠の中の「考える・話し合う」のコーナーに、めあてとともに記載している。</p> <p><b>第2の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫</b></p> <p>①問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりに「考える・話し合う」のコーナーを設け、めあてを示し、それに迫るための問いを設けている。</p> <p>②教材文の終わりに設けた「考える・話し合う」の中で、生徒に教材の場面を追体験させる問いや、役割演技を促す活動を設けている。</p> <p><b>第3の観点（ウ）内容の構成・配列・分量</b></p> <p>①各学年とも35教材を設けるとともに、別冊「中学生の道徳ノート」を設けている。</p> <p>②A いじめ防止につながる教材とともに、いじめ防止につながる特集「thinking」を設け、巻末にも特集「いじめを許さない心」を設けている。  B（小中一貫教育）学年段階を考慮して、第1学年は全ページ文字サイズを大きくしている。</p> <p><b>第4の観点（エ）内容の表現・表記</b></p> <p>①掲載しているすべての教材名を、4つの視点で色分けし、内容項目別に整理している。</p> <p>②教材文の終わりに木の葉のマークを使い、先人や現在活躍している著名人の言葉を掲載している。</p> <p><b>第5の観点（オ）言語活動の充実</b></p> <p>①教材の終わりに「考える・話し合う」という項目を設け、考えたことを基に議論する活動を示している。</p> <p>②別冊「中学生の道徳ノート」の巻末に、伸ばしていきたいことや今後の目標についての振り返りを書く欄と、教材ごとの学習の振り返りをチェックする折り込みのページを設けている。</p>
--------------	--